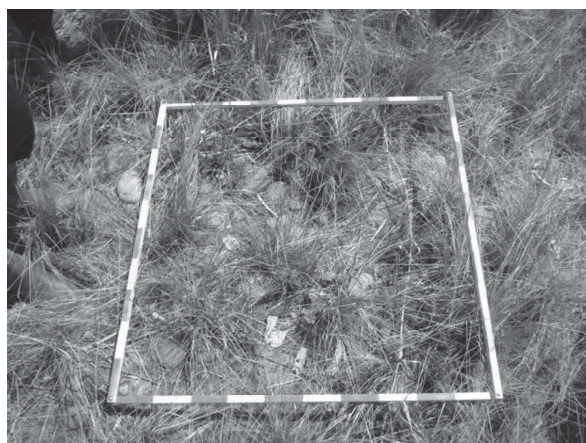


3 2010 年度環境調査事業

シナダレスズメガヤ生息場所調査

シナダレスズメガヤは南アフリカ原産の多年生の牧草で、高さは50cm～150cm、葉の幅はかなり細く一つの株から多くの茎葉が密生して、しなだれる。成長すると50～60cmの大きな株になる。英名は Weeping Love Grass。日本には緑化植物として1951年に移入されたらしい。シナダレスズメガヤは種子を大量に低コストで用意できることや、耐暑性が高く、痩せ地や砂地、砂礫地でもよく育つため、道路の法面の土止めなどの緑化植物として使われてきた。しかし、近年、河原にまで侵入してきたため、カワラノギク、カワラハハコ、カワラヨモギといった在来の河原植物が著しく減少している。シナダレスズメガヤの河川への侵入は生物多様性にいちじるしい影響を直接的に与えるだけでなく、生育した株は密で多量のヒゲ根がしっかりと土砂をつかまえて堆積させ、河原の陸地化を進行させている。



河川はダム建設などによって洪水が抑制され、新たな砂礫の供給が不足し、流路の固定化、川底のアーマコート化（川底が鎧を着たように固く締まること）、河原の陸地化など、川がもっている本来の姿を変えているが、シナダレスズメガヤもこれに関与している。シナダレスズメガヤの河川への侵

（報告者：岡田 一慶）

入は相模川だけでなく、全国的な問題である。吉野川や鬼怒川では効率的な駆除方法を検証する調査が行われている。

人為的に持ち込まれた外来生物が既存の生態系や農林水産業に悪影響を及ぼす事例が報告されていることから、平成16年6月に特定外来生物被害防止法が成立し、外来生物の適切な取扱いが求められることとなった。シナダレスズメガヤも特定外来生物に選定されている。

緑化に用いられる外来植物は、災害防止のための法面緑化など様々な場で用いられている。そこで、環境省、農林水産省及び国土交通省の3省が連携して、被害の発生状況の把握と併せて、代替的な植物の入手可能性や代替的な緑化手法の検討等を含めて、総合的な取組みについて検討を行った。

そして、平成17年度社会資本整備事業調整費（調査の部）予算を用いて「平成17年度外来生物による被害の防止等に配慮した緑化植物取扱方針検討調査」を共同で実施し、報告された。

その結果、「シナダレスズメガヤに関しては高い草丈によって、河原の固有植物であるカワラノギク等を被陰していること、砂を堆積することにより土壌環境を改変することが報告されている。また、現時点において生態系等への影響発生と関連するかは明瞭ではないが、シナダレスズメガヤの高い発芽率や、やせ地でも生育できるという特性が確認されている。

このように多くの影響が指摘されているシナダレスズメガヤに関しては、今後、使用を控えることが望ましい。」としている。

相模川はどうだろうか。22年度から本会

がはじめたシナダレスズメガヤの分布調査は、シナダレスズメガヤの分布している場所を小型GPSを使って計測することが特徴である。測定されたデータは処理が行われ、グーグルアース上に正確な分布範囲を表示することができるようになった。また、分布範囲の面積もGPS計測が可能である。相模川全体のシナダレスズメガヤの生息地図を作成することは、シナダレスズメガヤの効率的な駆除方法や、駆除場所の優先順位なども具体的に提案する確かな情報として活用することができる。相模川河川整備計画では、調査結果がシナダレスズメガヤの対策を河川整備計画に位置付けるための資料となることも期待できる。

調査では、過去にカワラノギク、カワラサイコ、カワラヨモギなどが生息していた場所（猿が島、海老名運動公園前）にシナダレスズメガヤの大群落を確認されている。したがって、具体的な対策の検討が必要であると思われる。例えば、在来の河原植生がシナダレスズメガヤに被圧されてなくなった場所では重機で河原を掘り起こし、シナダレスズメガヤを駆除することが考えられる。在来の河原植生とシナダレスズメガヤが混在している場所ではツルハシなどによる手作業による駆除が必要だろう。駆除方法は条件に合わせて対応しなければならない。

手作業の駆除は既に猿が島の河原で試験的に始まっている。作業はシナダレスズメガヤを刈払い機で刈り取り、ツルハシで株を抜き取るという手順だ。その場所はカワラサイコ、カワラヨモギがシナダレスズメガヤ群落に埋もれながら生息している河原で、相模川全体から見ても、貴重な場所になっている。以前にはカワラノギクも生息していたことから、4月にはカワラノギクを播種して、どのように生育するか、観察

することになっている。

既にシナダレスズメガヤの生態系もできあがっている場所では、カヤネズミ、チドリなどの生息地になっている可能性もある。そのような状況ではシナダレスズメガヤを保存するなど慎重に対応することも求められている。

現在までに調査した地点は、上流から神沢、磯部頭首工～新相模大橋（国道246号）、貫抜川河口～あゆみ橋、相模大堰～神川橋下流である。

GPSによる調査地点は745地点になった。シナダレスズメガヤの群落数は大小合わせて72群落である。最大の群落は寒川の神川橋下流左岸の群落で約3.5haもあった。1ha以上の大きな群落は他にも4ヶ所あり、海老名運動公園前の河原に3ヶ所、猿が島の河原に1ヶ所あった。

相模川の広い河原には岸辺の湿潤な場所や、洪水で水位が上がる場所を除いて、かなりの場所にシナダレスズメガヤが進出していることが分かってきた。

調査中の資料は厚木土木事務所相模川環境課にも提供し、情報の交換が行われつつある。年度ごとには、厚木土木事務所と具体的な駆除対策を協議したいと思っている。駆除場所の優先順位は確定はしていないが、カワラサイコやカワラヨモギなど在来の河原植生が現存している場所を考えている。

シナダレスズメガヤとは別に、河原を歩いて感じることは、オフロードバイクのすさまじい侵入の実体だ。至る所に激しいタイヤトレースによる河原の破壊が見られる。早急に適正な利用のルールが必要と思われる。

グーグルアースで現在までの調査地点、生息範囲を見ることができる。ファイルが必要な方は事務局まで連絡してほしい。

相模川下流域河川敷におけるシナダレスズメガヤの繁茂分布状況の調査報告

(報告者：峯谷 一好)

相模川湘南地域協議会メンバーが行った分布調査の概況を報告する。

1 調査場所

相模川河口地点から上流側、相模大堰(厚木市岡田)までの約12kmの両岸。

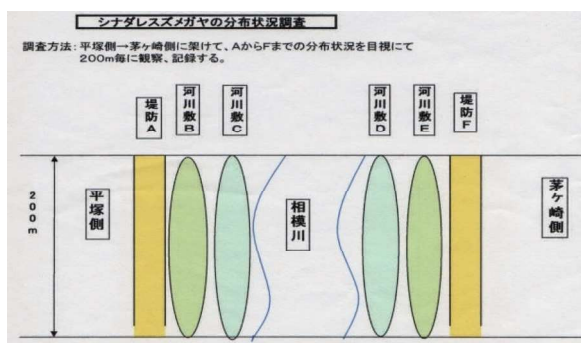
2 調査日と調査範囲

調査は延4回半日(3H)をかけて実施。

2010. 5. 3	西岸側	河口～神川橋
2010. 5. 30	西岸側	神川橋～相模大堰、
	東岸側	銀河大橋～神川橋
2010.12.26	西岸側	神川橋～相模大堰
2011. 1.26	西岸側	河口～銀河大橋

3 調査方法

相模川堤防の両岸に200m間隔で設置されているコンクリート製杭を基にして、200m区間毎に、河川敷を堤防面、河川敷面、川岸面の3つに区分し、それぞれの面についての分布密度を目視で調査、確認した。



分布密度を下記の目安で数値化した。

- 3：75%以上の密度で当該区間に分布
- 2：25%～75%の密度で分布
- 1：25%以下の密度で分布
- 0：分布確認出来ず

4 分布状況について

相模川河口地点から相模大堰までの約12kmの区間の中でシナダレスズメガヤの生育が観察された区間(200m単位)は、相

模川西岸側(平塚寄り)で約73%、東岸側(茅ヶ崎・寒川寄り)で約34%とかなり生育が進んでいることが判明。

特に、神川橋下流側の河川敷及び戸沢橋の上流側河川敷は、砂礫混じりの河原がシナダレスズメガヤで覆いつくされてしまい、他の在来植物が生育出来ない大群落地になっていた。

○印：大群落地

×印：密度1以上。

5 今後の取組み

2011年度の活動として、シナダレスズメガヤの大群落地点である神川橋下流側河川敷でシナダレス

ズメガヤを除去し、かつての自然景観を取り戻すための活動を計画している。

シナダレスズメガヤの除去は人力では難しく、国土交通省京浜河川事所に、1区画(約100㎡)程度での整備の支援をお願いし、整備跡地に、相模川湘南地域協議会でカワラノギクを試験的に栽培育成する予定である。4月初旬頃にカワラノギクの播種を行い、育成、フォローを予定している。

また、さがみはら地域協議会の中流域のGPSを利用した調査に合わせ、下流域についても同様な調査を行って分布状況調査の精度をあげたいと考えている。



環境調査事業（身近な水環境一斉調査）報告

（報告者：宮野 貴）

1 はじめに

本調査は環境調査事業のひとつとして、2005 年度から取り組んでいるもので、全国一斉に行われた「第 7 回身近な水環境の全国一斉調査」（一斉調査日：6 月 6 日）に参加する形で実施したものです。今年度は全国約 5,900 地点で調査が行われ、流域協議会では約 80 人が参加し、桂川・相模川流域を中心に 170 地点で調査しました（表－1 参照）。

2 調査の概要

調査は、全国統一の調査項目である COD（化学的酸素要求量）を 3 回測定し、また、ごみの有無、濁り等、水辺の状況について判る範囲で観察しました。

表－1 調査地点数一覧

	山梨県内	神奈川県内	計
桂川・相模川流域	47	66	113
他流域	4	53	57
計	51	119	170

表－2 流域内外の平均値
（COD 中央値）

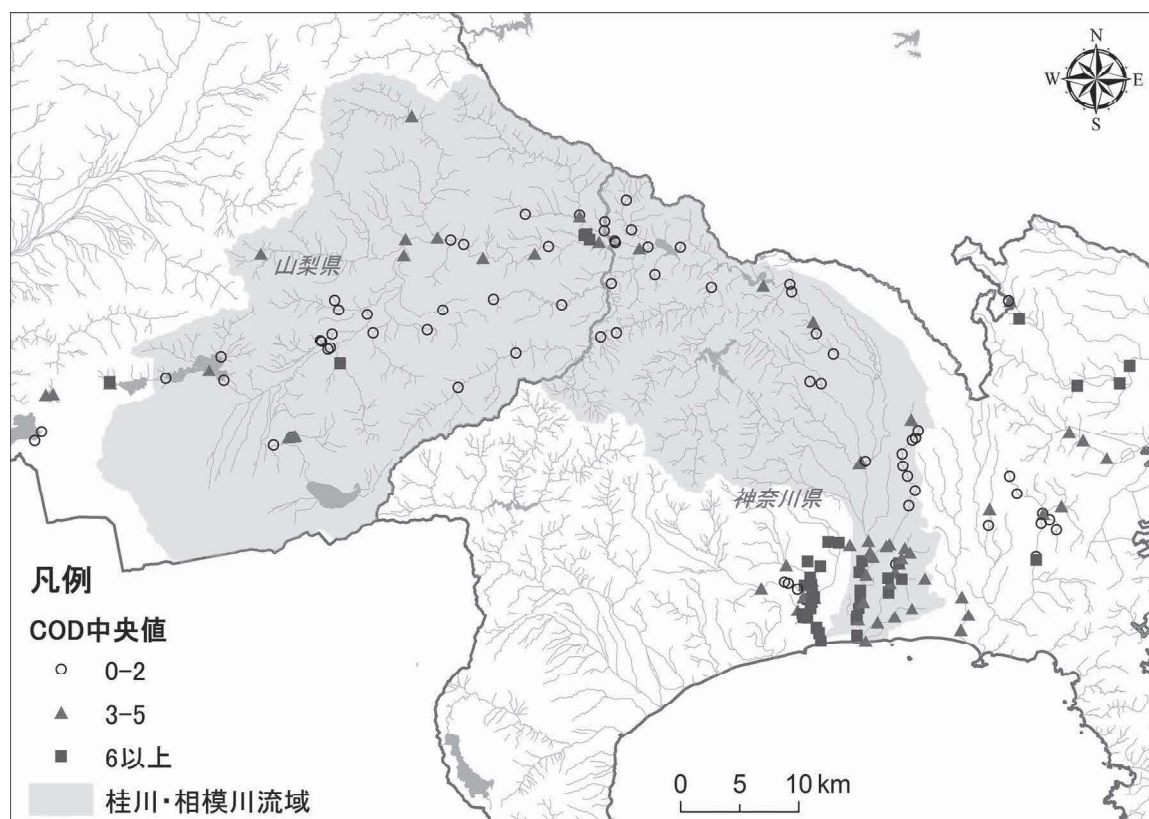
	山梨県内	神奈川県内	計
桂川・相模川流域	2.7	3.5	3.2
他流域	2.5	4.6	4.5
計	2.7	4.0	3.6

3 調査結果の概要

各調査地点の COD を 3 段階に区分したものを図－1 に、流域内外の平均値を表－2 に示します。

皆さんの身近な水辺の状況はどうですか？

2011 年度はあなたも是非参加してみてください。



図－1 調査結果総括図（COD 中央値）

■身近な水環境の一斉調査全国水環境マップ実行委員会 URL <http://www.japan-mizumap.org/>

4 桂川・相模川クリーンキャンペーン 2010

(報告者：神奈川県環境農政局水・緑部水源環境保全課)

(1) 実施目的について

桂川・相模川クリーンキャンペーンは、「アジェンダ 21 桂川・相模川」の基本理念に定められている「散乱ごみ・不法投棄のない地域づくり」及び「市民、事業者、行政が連携した取り組み」の実践として、例年実施しているものです。

(2) 実施内容について

ア 情報収集と情報発信

桂川・相模川流域の各地域で、ゴミ拾い等の流域環境保全活動を実践している方や団体から、その活動の実施予定情報を収集しました。

当協議会では、御提供いただいた実施予定情報をとりまとめ、リーフレットの配布や当協議会のホームページにより、年 2 回、情報発信しました。

イ 実施支援

当協議会に流域環境保全活動の実施予定をお知らせいただいた方や団体には、希望に応じて、軍手やゴミ袋（国土交通省京浜河川事務所提供）、簡易水質測定器（COD、pH 等のパックテスト）などの物資を提供しました。

【2010 年度 資材提供実績】

品 目	提 供 総 数
ゴミ袋	20,000 枚
軍 手	13,000 双
簡易水質測定器	540 個

(3) 実施結果について

今年度実施した「桂川・相模川クリーンキャンペーン 2010」では、桂川・相模川流域の各地域で 36 回のキャンペーン事業が実施され、54,166 人が参加し、143,656kg のゴミを回収しました。

なお、実施結果の概要については、「桂川・相模川クリーンキャンペーン 2010 実施結果一覧」（26 頁から 27 頁に掲載）のとおりです。

(4) 参加者の主な意見・感想について

- 以前に比べ空き缶のゴミは減ったが、あいかわらずビニール類が多いと感じた。活動を続けてきたことが影響しているのか、川の水は年々きれいになっているような気がする。
- 今回は地元の 2 自治会の協力得て、河川内に入ってゴミを収集した。前回よりごみは半減していた。天候にも恵まれ、有意義な活動となった。
- 昨年同様、他団体による清掃活動やマナーの向上により、ごみの量は少なくなっていたが、心無い不法投棄が後を絶たないことに腹立たしく感じた。



「平成 22 年度環境講習会及び河川美化活動」を実施（6 月 17 日）
【目久尻川吉野橋～瀬端橋で清掃活動を行った。】



「相模川クリーンキャンペーン」を実施（5 月 16 日）
【相模川三川合流点河川敷等で清掃を実施し、1,190kg を回収】



清掃活動とともに相模川の簡単な水質調査と生物観察を実施（7月25日）
【パックテストを使った水質調査を実施。CODは昨年より悪い数値となった。】



「クリーンキャンペーン」を実施（5月16日）相模川河口（茅ヶ崎側）で清掃活動を行い、タイヤを含め、約180kgを回収した。【晴天にも恵まれ、有意義の活動になりました。】



「目久尻川クリーンアップ大作戦」を実施（10月3日）
【目久尻川沿いの亀島団地～小園橋までの間で清掃等を実施。自転車やバイクを含め、約300kgを回収。清掃活動とともに稚魚の放流事業も実施した。】

桂川・相模川クリーンキャンペーン 2010 実施結果一覧

番号	実施日	開催県	実施会場	主催者（団体）	事業名	参加者数 (人)	ごみ回収量（kg） ※ 1 kg未満は四捨五入			ごみ清掃以外 の実施項目	
							可燃ごみ	不燃ごみ	その他	簡易水質検査	水生生物調査
1	4月4日 (日)	神奈川県	国道20号線 吉野クリーン活動	藤野山岳会 藤野町山岳協会	国道20号線 クリーン活動	30	20	180	150 (タイヤ1、 ソファ1、 オイルタンク1)	—	—
2	4月第4、 5・6・7月 第2・4 水曜日	山梨県	山中湖畔一円	山中湖観光地を 美しくする会	住民による 一斉清掃	8,400	38,070	3,180			
3	5月1日 (土)	山梨県	都留市十日市場 田原の滝付近	都留市十日市場自 治会、桂川・東部地 域協議会	田原の滝 クリーンキ ャ ン ペ ー ン	20	180	0		—	—
4	5月23日 (日)	山梨県	大月市笹子～ 強瀬橋	桂川漁協大月支部	笹子～強瀬 一斉清掃	28	315	0			
5	5月15日 (土)	神奈川県	目久尻川 (宮山大橋～寒川橋)	寒川環境町民会議 (さむかわエコネット) 自然環境部会	目久尻川 クリーンアップ 作戦	20	90	75			
6	5月8日 (土)	神奈川県	海老名市永池川	永池川川歩き 実行委員会	第13回 永池川川歩き	41	5	3	40 (バイク1台)	○ COD	○
7	5月8日 (土)	神奈川県	目久尻川 亀島団地橋～小園橋	目久尻川を きれいにする会	目久尻川 クリーンアップ 大作戦	100	30	50	80 (自転車1台、 オートバイフ レーム1台)	—	—
8	5月9日 (日)	神奈川県	津久井湖道志橋～ 横浜水道青山貯水池	津久井湖の 自然を守る会	河原清掃例会	75	30	50	63.4 (タイヤ3本、 テレビ2台)	N・P	—
9	5月9日 (日)	神奈川県	座間市内目久尻川 (前田橋～寒川橋 海老名市境)	座間のホテルを 守る会	2010年目 久尻川クリ ンアップ作戦	72	700	500	50 (エンジンロック、 自転車、鉄パイ プ、鉄加工具)	—	—
10	5月16日 (日)	神奈川県	相模川河口 茅ヶ崎側	桂川・相模川流域協 議会、相模川湘南地 域協議会	相模川湘南地 域協議会「ク リーンキ ャ ン ペ ー ン」	19	80	70	31.2 (タイヤ4本)	—	—
11	5月16日 (日)	神奈川県	相模川（三川合流 点河川敷・旭町ス ポーツ広場）	厚木市 (河川ふれあい課)	第40回相模川 クリーンキ ャ ン ペ ー ン	2,400	670	310	210	—	—
12	5月30日 (日)	神奈川県	相模川、目久尻川、 小出川流域	寒川町	河川一斉美化 キャンペーン	1,476	620	2,500	140 (自転車5台、 バイク4台、 タイヤ4本)	—	—
13	5月30日 (日)	神奈川県	愛川橋、馬渡橋、 田代運動公園前河原 平山橋、戸倉河原	愛川町	あいかわごみ ゼロクリーン キャンペーン	6,000	2,500	1,400			
14	5月30日 (日)	神奈川県	茅ヶ崎海岸全域	茅ヶ崎市	美 化 キ ャ ン ペ ー ン ク リ ン 茅 ヶ 崎	1,795	4,460	1,120		—	—
15	5月30日 (日)	神奈川県	神奈川県各海岸	財団法人かながわ 環境美化財団	ビーチクリ ンアップかな がわ2010	14,971	22,650	8,538			
16	6月6日 (日)	神奈川県	高田橋ほか、市内 流域5地区9会場	相模川を愛する会	相模川 クリーン作戦	1,700	1,470	580		—	—
17	6月6日 (日)	神奈川県	道志川弁天橋 上流河原	中道志川 トラスト協会	中道志川 クリーンキ ャ ン ペ ー ン	20	30	30	16 (タイヤ2本)	—	—
18	6月17日 (木)	神奈川県	相模川水系目久尻川 (吉野橋～瀬端橋)	高座地区河川を きれいにする会 綾瀬地区部会	平成22年度環 境講習会及び 河川美化活動	40	10	10		—	—
19	7月25日 (日)	神奈川県	茅ヶ崎海岸全域	茅ヶ崎市・茅ヶ崎市 自治連絡協議会 (共催)	美 化 キ ャ ン ペ ー ン ク リ ン 茅 ヶ 崎	1,646	1,870	690		—	—

番号	実施日	開催県	実施会場	主催者（団体）	事業名	参加者数 (人)	ごみ回収量（kg） ※ 1 kg未満は四捨五入			ごみ清掃以外 の実施項目	
							可燃ごみ	不燃ごみ	その他	簡易水質検査	水生生物調査
20	7月25日 (日)	神奈川県	海老名市河原口の相模大橋下河川敷	地球チャイルド	相模川でかんたんな水質調査と生物観察	20	27	18	10 (電子部品の一部、ゴルフクラブ、ナンバプレート)	○	○
21	8月8日 (日)	神奈川県	相模川（三川合流点河川敷）	厚木市（河川ふれあい課）	「県央相模川サミット」六市町村合同クリーンキャンペーン	2,266	8,800	650		—	—
22	8月8日 (日)	神奈川県	河原口河畔公園付近、相模川河川敷	海老名市	「県央相模川サミット」六市町村合同クリーンキャンペーン	1,055	1,160	140		—	—
23	8月8日 (日)	神奈川県	座架依橋上流相模川グラウンド	座間市	「県央相模川サミット」六市町村合同クリーンキャンペーン	1,628	1,800	1,300		—	—
24	8月8日 (日)	神奈川県	高田橋（メイン会場）ほか（市内流域5地区9会場）	相模川を愛する会 相模原市	相模川クリーン作戦 「県央相模川サミット」六市町村合同クリーンキャンペーン	1,123	1,070	550	327 (自転車3台・自動車タイヤ2本・冷蔵庫1個・コンクリート10袋)	—	—
25	9月・10月 第2・4 水曜日	山梨県	山中湖畔一円	山中湖観光地を美しくする会	住民による一斉清掃	8,400	21,090	1,890			
26	9月26日 (日)	神奈川県	小出川新鶴嶺橋⇄萩園橋土手	小出川に親しむ会	小出川散策路そうじ	20	180	90			
27	10月3日 (日)	神奈川県	亀島団地から小園橋まで	目久尻川をきれいにする会	目久尻川クリーンアップ大作戦	150	90	18	190 (自転車3台・バイク1台・タイヤ10本・車輪等)		
28	10月3日 (日)	神奈川県	神奈川県綾瀬市吉岡吉岡地区センター	NPO 法人 ふるさと環境市民	目久尻川クリーンアップ作戦&環境学習会	50	100	50			
29	10月3日 (日)	神奈川県	相模原市緑区吉野国道吉野花だまり	藤野山岳会 藤野山岳協会	国道20号線吉野花だまり	50	0	4,000			
30	10月17日 (日)	神奈川県	津久井湖道志橋～横浜水道貯水池	津久井湖の自然を守る会	河原清掃例会	65	30	60	24 (タイヤ3本、カセット1本)	—	—
31	10月17日 (日)	神奈川県	道志川弁天橋上流河原	中道志川トラスト協会	中道志川クリーンキャンペーン	10	60	0	10 (バーベキュー用鉄板)	—	—
32	10月23日 (土)	神奈川県	荻野川（源氏橋～横林橋）	厚木市 荻野自然観察会	荻野川クリーンキャンペーン	16	1	1		○	—
33	1月以外 の第3 土曜日	神奈川県	目久尻川（寒川橋～旭橋等）	さむかわエコネット 自然環境部会	目久尻川クリーン作戦	144	495	336	336 (タイヤ、自転車、ミニバイク)	—	—
34	11月3日 (水)	山梨県	小菅村内全域	多摩源流クリーン作戦協議会	村内クリーン作戦	199	180	0	4,000 (4tコンテナ1台)	—	—
35	11月12日 (金)	神奈川県	目久尻川（寒川大橋～端午橋～いこい橋）	高座地区河川をきれいにする会	河川パトロール・河川美化活動	67	470	100		—	—
36	2月27日 (日)	神奈川県	小出川新鶴嶺橋⇄浜園橋	小出川に親しむ会	小出川川そうじ	50	70	30	20 (テレビ)	—	—

※ ごみの総合計量を推計するため、次により算出した。

- ・ 袋ごみは、1袋9kgとした。
- ・ 粗大ごみについては、各品目1点当たり、次の重量とした。
- ・ 具体名、数量が明示されていない粗大ごみ等は回収量に含めない。

合 計	54,166	109,431	28,527	5,698
ごみの総合計量(推計)		143,656kg		

タイヤ@ 7.8kg (トラック用@ 53.7kg)、テレビ@ 20kg、
冷蔵庫@ 60kg、洗濯機@ 30kg、自転車@ 20kg、
バッテリー @10kg

5 流域データベース化共同事業

(報告者：關 正貴)

(1) 事業の実施目的

2004 年度より日本大学系長研究室とのパートナーシップで推進してきました。今年度で 6 年目となった継続事業です。本事業は流域環境情報や活動情報を効率的に整理し、活用することを目的としています。

今年度は、昨年度に引き続き事業のデータ化を行いました。また、会員に向けた G I S 勉強会をおこなう予定としました。

(2) 事業の内容

2010 年度流域データベース化共同事業の活動内容は次の通りになります。

ア 会議の実施

本年度は市民会員や事務局が参加した会議を 2 回開催しました。

本年度より市民部会の担当者が増加し、窓口、データ整備、G I S データ化、勉強会講師等の役割分担で効率よく実施することができるようになりました。これを受け、会議では今年度の進め方、事業進捗説明、勉強会の開催方法等を話し合いました。この他、必要に応じて電子メールにて連絡を取り合いました。

担当が増え、様々な視点から事業を見つめ直す機会を得たため、事業データの拡充の重要性、勉強会の方向性などの議論が進み、今後の事業展開に向け重要な年となりました。

イ 流域協議会事業等のデータベース化

まず、流域協議会事業活動の G I S 化として次の事業に対して実施しました。

(ア) 身近な水環境の一斉調査

2005 年度から毎年身近な水環境の一斉調査の情報を G I S 化しています。今年で 6 年目になりました。事業担当者より、身近な水環境の一斉調査の事務局から返送されたデータを送付いただき、本事業担当者が G I S へ取り込み後、図化し、事業担当幹事に渡すことで、報告書の作成等に活用されています。

本年度も図化は C O D について行い、皆さんに計測していただいた 3 回のデータの中央値を使用しています。図 1 のようなグレーの図のみならず、カラーの図の作成および受け渡しも行っています。

(イ) 流域協議会事業活動データの見直し

2004 年度の事業開始より、昨年度の田んぼの生きもの調査、2005 年度より

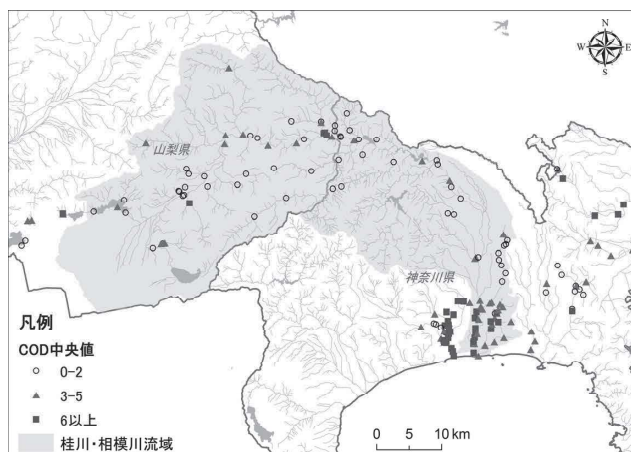


図 1 身近な水環境の一斉調査

行っている身近な水環境の一斉調査など、合わせて6事業の活動のデータベース化を行っています（表1）。現在、データ整理を進めており、必要に応じて整備を行っていく予定です。

表1 GIS化した事業活動データ

NO.	事業名
1	身近な水環境の一斉調査
2	田んぼの生きもの調査
3	魚道調査
4	シジミ調査
5	桂川・相模川流域シンポジウム
6	上下流交流事業

表2 GIS化した基盤データ

NO.	事業名
1	山梨県・神奈川県
2	桂川・相模川流域
3	流域協議会会員市町村
4	GISにて算出した桂川・相模川流域を含む
5	流域標高図
6	流域河川図

（ウ）GIS化した活動データや基盤データの利用

これまで、基盤データとして、6種類のデータを作成しており（表2）、身近な水環境の一斉調査等の活動データの図化などによる提供に加え、本年度も独自に作成した桂川・相模川流域等の提供を関連機関に向けて行いました。今後も事業担当幹事、市民会員、関連機関等に提供していきます。

ウ 会員向けGIS勉強会の実施

本年度も会員向けGIS勉強会を企画しました（表3）。

今回は、近年日本語化が積極的になされて皆さんにも十分利用することが可能となったフリーGISを利用し、自宅での活動データの利用を可能にすることを目的と準備を行いました。

しかしながら、地震の影響により、会場に立ち入ることができなくなったことから次年度以降に順延と致しました。

表3 勉強会開催予定と目的

開催予定日	名 称	会 場	目 的	内 容
3月13日 （日）	GISに 親しむ会	日本大学生物 資源科学部 建築・地域共生 デザイン 研究室	フリーGIS を利用し自宅 での活動デー タの利用を可 能にする。	(1) 流域DB事業 ・これまでの経過について 簡単に説明します。 (2) フリーGISの利用 ・PCを使ってフリーGIS 利用の実習指導。

6 会報誌の発行事業

(報告者 山梨県富士・東部林務環境事務所)

桂川・相模川流域協議会の活動状況やアジェンダの進捗状況について、広く会員等に周知するために会報誌「あじえんだ 113」を発行しています。2010 年度には、2010 年 12 月（第 25 号）と 2011 年 4 月（第 26 号）に、2 回発行しました。

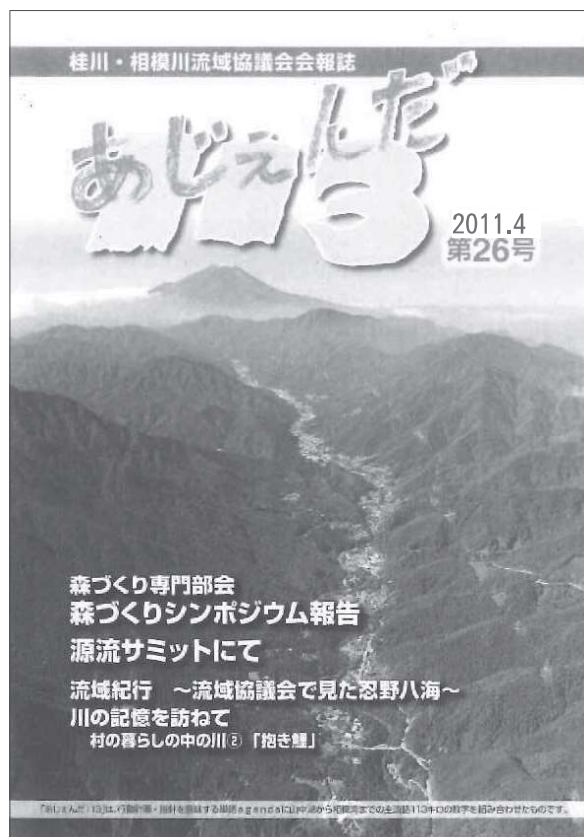
第 25 号では、地域交流シンポジウム及びその勉強会である茂倉ダム撤去の現場視察をメインの記事としました。カラーページでは今号から、「流域紀行」が始まりました、第 1 回目は山中湖を訪問しました。また、元琉球大学教授の小島先生による「川の記憶を訪ねて」が始まりました。民俗学的な立場から流域をひもといていただきました。

第 26 号では、森づくり専門部会による森づくりシンポジウムで最近話題になっている外国資本による森林買収を取り上げています。また、前号で紹介しきれなかった道志村において開催された源流サミットを当日のパネリストでもあった源流研究所長の中村文明様に紹介いただきました。カラーページでは「流域紀行」の第 2 回、忍野村を訪ねました。

なお、会報誌は、桂川・相模川流域協議会のホームページ (<http://www.katura-sagami.gr.jp/>) にアクセスすると、創刊号からご覧いただくことができます。



あじえんだ 113【第 25 号】



あじえんだ 113【第 26 号】

★ あじえんだ 113 流域紀行新連載が始まりました。

2010 年度は桂川・相模川の源流でもある山中湖村、上流域である忍野村を訪れました。

それぞれ地元会員の案内により、各地域の名勝のみでなく、地域の抱える問題点や課題などをお教えいただき、それぞれを紙面に活かすことができました。



山中湖にて

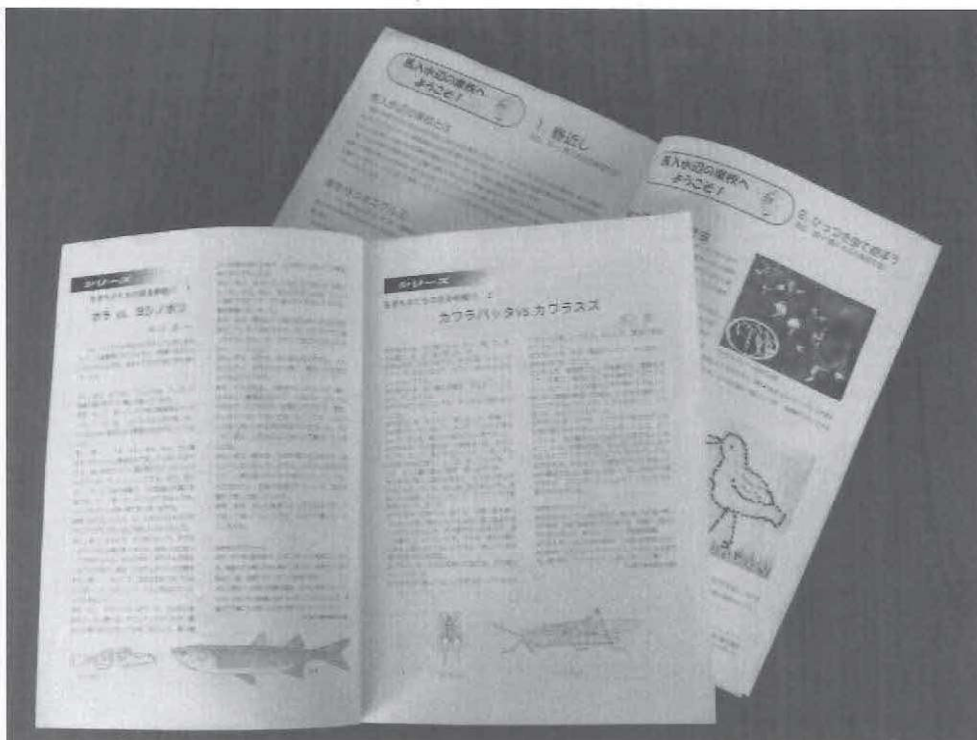


忍野村にて

★ 浜口哲一先生追悼特別号を発行しました。

あじえんだ 113 に長らく御連載いただき、会の活動にもいろいろご助言等をいただいた浜口哲一先生が平成 22 年 5 月にお亡くなりになりました。

浜口先生には、本誌第 4 号（2000 年 3 月号）から連載をいただき、第 24 号（2010 年 3 月号）が最後の原稿となるまで、都合 17 回にわたりご寄稿いただき、博識な知見で私たちを楽しませてくれました。その浜口先生の連載を一冊に取りまとめ、追悼特別号としました。



7 ホームページ運営事業

(報告者：神奈川県環境農政局水・緑部水源環境保全課)

(1) 事業内容について

桂川・相模川流域協議会では、広く情報を発信するため、2001年9月からホームページを開設し、ホームページ運営委委員会を組織して、掲載内容の確認や運営の意志決定を行っております。ホームページの運営及び更新等については、外部に委託することによって、より迅速に情報発信を行っています。

また、委託者からの提案もあり、2006年7月1日には、さらに使いやすく、内容を充実させるため、リニューアルを行いました。

今後は、実施した事業結果の掲載などを積極的に行い、よりよい情報発信に努めていきます。

(2) アクセス件数について

今年度のアクセス件数は、4,540件となり、昨年度と比較して314件の増となっています。今後ともより一層の充実を図っていきたいと考えています。

【各年度別アクセス件数】

年 度	件 数	累計件数
2001	800 件	800 件
2002	4,299 件	5,099 件
2003	5,266 件	10,315 件
2004	5,561 件	15,876 件
2005	6,853 件	22,729 件
2006	6,803 件	29,532 件
2007	6,190 件	36,181 件
2008	6,008 件	42,189 件
2009	4,226 件	46,415 件
2010	4,540 件	50,955 件

※ 2001年度は9月から(7か月分)



桂川・相模川流域協議会ホームページアドレス

http://www.katura-sagami.gr.jp/

8 地域協議会の活動

(1) 桂川・東部地域協議会

(報告者：山梨県富士・東部林務環境事務所)

1 役員会の開催

役員会 2 回開催 (4 / 6、10 / 14)

2 総会の開催

2010.4.25 (日) 大月市民会館

総会では、桂川流域の環境保全を図り、地域に密着した持続可能な循環型環境保全社会を築くことを目的とし、引き続き森林保全体験や環境学習会等様々な事業を実施していくことが決定された。特に今年度は、管内の大学で活動を行っている先生に参加を呼びかけるなど会員以外の方の参加を促す方法を検討していくこととなった。

また、議事後には、さがみはら地域協議会会員の田島龍司氏による「河川への影響の少ない建物清掃について」をテーマとする講演会を行った。講演では、現在一般的に行われている建築物メンテナンスのためのワックス掛け等が環境に与える負荷の高いこと、それに対する対策等が説明され、参加者は興味深く聞き入り、質疑応答が交わされた。



3 クリーンキャンペーン

(1) 田原の滝クリーンキャンペーン

2010.5.1(土) 都留市田原の滝
参加20名

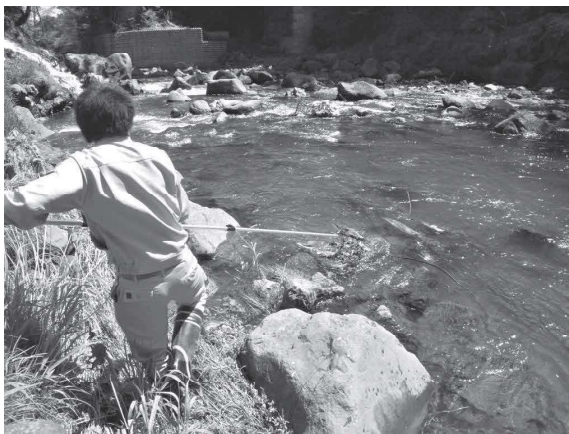
松尾芭蕉が『勢ひあり 氷消えては 瀧津魚』と詠んだ、都留市田原の滝周辺のクリーンキャンペーンを実施。会員である都

留市議清水さんの呼びかけで、地元市民会員、事業者会員、地元の十日市場自治会、など幅広い参加者のもと、地元のこいのぼり祭り実行委員によるこいのぼりを泳がせる活動に合わせて行われた。



当時は富士山の伏流水が流れ込む良質な水、両側にそそり立つ急峻な崖、勇壮な滝、また滝の向こうにトトロと電車が走るといった素晴らしい景観であり、カメラマンも多く訪れるところ。ごみは拾えばよいのだが、崖が急で川までたどり着くのが難しく、なかなか清掃が及ばない箇所となっていた。

参加者の皆さんに、長靴を着用してもらい、はしごを使って何とか川岸に降りたが、今年度は例年に比し水量が多かったため、滝としての迫力は例年以上との声が多く聞かれた。しかしながら、その水量の多さのため対岸へと渡ることが不可能となり、左岸のみの清掃活動となった。そこで、昨年別のクリーンキャンペーンでその必要性を実感した遠いところのごみを取るマジック



ハンドが大活躍した。

そんな1時間ほどの作業ではあったが、袋の数にして20あまりのごみが集められた。その拾ったゴミを橋の上に上げるのがまた、一苦勞。川から橋まで高さ20mほど、ゴミを大袋に詰めて、人力で集合場所まで集めることとした。集めたごみは地元の業者さんのご厚意により無料で処分していただいた。

この活動は、多様な主体との協働、活動方法の検討など今後のごみ拾い活動を検討するきっかけとなった。

(2) 猿橋付近桂川水底清掃活動

2010.8.18(水) 大月市猿橋近隣公園
参加12名



会員の河西さんの知り合いのダイバーによる桂川水底清掃活動のほか、地協の会員や、地元の漁業協同組合の方にも声をかけ、併せて河原のごみ拾いを行うこととした。

当日は朝から、盛夏の盛り、日陰にいても汗がにじみ出てくるような暑さとなったが、河原には日頃の漁協の皆さんの活動の成果が目立ったごみはなく2袋程度のごみが集められた。本日のメインイベントは水底の清掃。1名が手にビデオカメラを持ち計3名のダイバーが水中へ。どのような状況かが気になるころではある。時折ダイバーが水流から顔を出し、「魚が結構います。」や「ごみはそんなに多くはありません」など、水中の状況を伝えてくれた。

約300mの区間を1時間程度潜水、状況はDVDに編集してあるのでご覧になりたい方は事務局まで。



4 各種事業参加

(1) 流域シンポジウム

2010.9.25(土) 神奈川県厚木市
参加15名



台風の影響が心配されたが、晴天に恵まれ実施された流域シンポジウムに山梨からバスを借り上げて参加した。地協会員のほか環境保全に興味を持つ大月短期大学や都留文科大学の学生が参加してくれた。

(2) 源流サミット

2010.10.23(土) 山梨県道志村
参加12名

桂川・相模川流域協議会も後援した今回のサミットには、地元ということもあり、バスを借り上げ参加した。地協会員のほか大月短期大学や都留文科大学の学生が参加してくれた。

(2) さがみはら地域協議会

(報告者：倉橋満知子)

1 総会 1回／運営委員会 1回

さがみはら地域協議会は常に本会事業を担っています。今年度は環境調査事業「外来植物シナダレスズメガヤ調査」や流域シンポジウムです。流域シンポジウムではスタードームを作るため、孟宗竹を切り出し、一本を6つに裂く作業を行いました。また、前学習のダム撤去見学会など主な事業の企画、運営を行いました。そのため、本来の地域協議会の事業をこなすことが困難になることがまありましたが、湘南地域協議会の協力も得て、自分たちの地域の山を知るハイキングを初めとして、桂川・相模川流域協議会の活動を紹介し、森づくりのための流域材の普及啓発を相模原市や厚木市で展示しました。継続事業のカワラノギクの再生保全も順調に進み、カワラノギクが咲く場所が増えてきました。里モニ調査も地道に継続しています。また、地域の不法投棄でごみの山になっていた林を学校や自治会と連携して、ごみの撤去をして、小さな森によみがえりつつあります。

2 「松茸山ハイキング」 5月15日

11名の参加者で山つつじが咲く山に登りました。



3 流域シンポジウムの準備・事前学習会に協力／群馬県みなかみ町茂倉ダム撤去見学
実施日 8月27日 参加者 28名

暑さが厳しい中、マイクロバス2台で現地へ向いました。途中バス1台のクーラーが効かなくなるハプニングもありましたが、山へ向かうに従い自然の風の涼しさをこちよく感じながら、ダム湖に到着。現地案内の方たちと合流して、赤谷川プロジェクトの森へ。



9月25日・26日相模川三川合流河川敷で「川は誰のもの」をテーマでスタードーム作りや豚汁作りを協力。



4 環境調査「外来植物シナダレスズメガヤ」
シナダレスズメガヤを一部駆除して、カワラノギクの種をまいた。



5 相模原市「生活消費展」、「森林フォーラム」、「全国植樹祭サテライト相模原会場」、厚木市「環境フェア」に展示参加。

主に流域材の活用を主に、モデルハウスの模型を展示して、木を使う意義を説明したり、生ごみの堆肥化を説明。みなさん熱心に耳を傾けてくれました。



6 継続事業「カワラノギク再生事業」、「里モニ 1000 調査事業」

カワラノギクの再生保全の活動場所の整理を行い、湘南小学校の圃場では種の保全を主として、以前より活動してきたカワラノギクを守る会が行い、神沢河原の再生は相模原市博物館のエリアとさがみはら地域協議会のエリアを各々が活動することになりました。種まきから始まり、草取り、種取りを終え、厚木や湘南地域に種のまき場所を実験的に拡大をすることにしました。



湘南小学校でカワラノギクのお花見



神沢河原でのカワラノギクの種取り

里地モニタリング 1000 調査は 3 年目となり、引き続き行いました。

場所 鳩川・縄文の谷戸

植物 毎月 1 回

蝶 春から秋 月 2 回

鳥 5 月、6 月、12 月、1 月、2 月



7 新磯野の緑地ごみ清掃

さがみはら地域協議会が応援しました。

不法投棄の林を皆の力で市民緑地に！！

平成21年3月まで、もえぎ台小学校に隣接しているその林は写真のようなごみの山でした。当日集まった人 120 名、2 時間の間に、700㎡ の土地からは 20 t のごみが運び出されました。学校、PTA、周辺自治会、私たち新磯野の環境を守る会、そして相模原市、本当に多くの人たちの力が合わさりました。ここは民有地でしたがその後市に管理委託され、平成 22 年11月に、それぞれの団体の代表者が集まり〔新磯野 2 丁目市民緑地を守る会〕が結成されました。この間そして今も引き続き、まだ埋もれているごみや表面に散っているガラスくずなどの掃除を続けています。今後ここが本来の相模原の雑木林になるには容易なことではないけれど、まず第 1 歩は始まりました。



清掃前



清掃後

(3) 相模川湘南地域協議会

(報告者：峯谷 一好)

1. 運営委員会の開催

平塚市、茅ヶ崎市、寒川町で10回開催
(5/12、6/9、7/14、9/8、10/13、11/10、
12/8、1/12、2/9、3/9)

2. 総会の開催

4月11日 平塚市市民活動センター 17名

3. 「相模川と私たちの生活展」

4月10～11日 平塚市市民活動センター
・「2009年度の湘南地域協議会員による水
質検査の報告と結果検討会」



- ・学習会「相模湾の不思議」

講師 木幡 孜氏

- ・講演会「相模川の魚」

講師 西出 亨氏

- ・川にかかわる市民・団体交流会

相模川湘南地域協議会員（行政3名市民9
名）市民団体（7団体9名）計21名

湘南地域で、川の環境を守ろうと、水環境
調査や河川清掃などの活動を行っている市
民や団体が集まり、日常活動の報告と意見



交流を行った。

4. 「知ろう、ふれよう、寒川の川」

10月16日 寒川町総合体育館

- ・講演会「水と川と農業」

講師 井上 駿氏

- ・講演会「河川美化ボランティアについて」

講師 柳川三郎氏

- ・パネルディスカッション6市民団体（平
塚市2団体、茅ヶ崎市1団体、寒川市3団
体）

川の美化に取り組む市民が問題解決のた
めの意見交換を行った。

- ・パネル展示

市民団体、行政のほか、相模川附村々麓
絵図面(文政七年 縦1.5 m横 10m)を展示。



5. シナダレスズメガヤ調査

5月、12月、1月に計4回実施。詳細は
本誌の環境調査事業「シナダレスズメガヤ
調査」欄を参照下さい。

写真はシナダレスズメガヤの除去を試み
る会員。



6. 「相模川クリーンキャンペーン」

5月16日 相模川河口茅ヶ崎側 19名

他の団体と共同で、多くの河口部漂着ごみを集めることができた。

7. 身近な水環境の一斉調査

6月6日 平塚市、茅ヶ崎市、寒川町の河川
45地点 15名

測定結果を取りまとめ、河川の汚れについて各種イベントで展示、説明した。

8. 野鳥観察会と講演の会「湘南の野鳥」

2月20日 茅ヶ崎市小出川 27名

小出川に集まる冬鳥を見ることができた。茅ヶ崎における野鳥の生態についての解説を頂いた。



9. 相模湖と神沢河原の自然観察会

相模湖湖上で旧勝瀬村住民から相模湖についての過去と現在の問題を聞き、相模川で一番自然が残っている神沢河原で自然を観察する会を3月26日に計画したが、東北関東大震災の発生を受け中止とした。2011年度に再度計画する予定。

10. 各イベントへの参加

・平塚市緑化まつり 4月29日

企画展示「ミミズと仲良くしよう」には、多くのこどもたちが参加した。

・ちがさき環境フェア 7月3・4日

企画展示「活動紹介」「相模川検定試験」「ミミズと仲良くしよう」

・ひらつか環境フェア 7月25・26日

150名分準備した資料や景品がなくなるほど盛況であった。

企画展示「活動紹介」「ミミズと仲良くしよう」



・ちがさきエコワーク 9月27日

講演「相模川と地域の歴史」

講師 中門運営委員

・あつぎ環境フェア 11月1日

「活動紹介」「ミミズと仲良くしよう」「相模川検定試験」検定合格者 215名。

さがみはら地域協議会と共に参加し、盛況であった。

・森と川と海的环境を考える集い

12月19日 パネラー 峯谷運営委員

・相模川の河畔林を育てる会

野鳥観察会 2月13日 32名

築堤工事に伴い縮小した相模川茅ヶ崎側水害防備保安林を守るために、「相模川の河畔林を育てる会」が設立され、会長に蔵前運営委員が就任した。第一回の催しに多くの市民が参加し、育てる会への入会希望も寄せられた。

・ひらつか市民活動センター「ボランティア博」

2月20日 企画展示「活動紹介」

(4) 相模川よこはま地域協議会

(報告者：牧島 信一)

当地域協議会は、桂川・相模川流域の外に位置し、主として水道水源として恩恵に浴しているという地域特性を踏まえて、次のような視点で活動を計画し、実施した。主に次のような観点で主として活動して、他団体との交流も図りながら、2010年度は活動を行ったので報告する。1) 流域の水環境の実態と課題を知り交流を図ること、2) 神奈川県東部地域他を含む県民に幅広く桂川・相模川流域の恵みについて啓発・周知すること、3) 他団体等との協働・連携をより多く図り各所において多様な活動を展開することなど。

- (1) **総会の開催**：5月12日(水) 13:00～16:15、かながわ県民センターにて、相模川よこはま地域協議会第7回総会を開催して、規約に則り総会は成立し、H 21年度事業収支及び実績報告、役員選任、H 22年度事業収支予算案及び事業計画案が了承された。なお、総会に先だって神奈川県農業技術センター・横浜川崎地区事務所所長山田良雄氏を講師に講演会「稲の栽培と環境保全について」を開催して、他の地区からの会員参加もあって好評を博した。

(2) よこはま地域協議会の主な活動

1) 河川・飲料水の水質に関わる活動への調査参加、出展参加等

水質に関わる行事は多方面にわたり、1年を通して下記のような活動に参加した。

- ① **全国一斉水質調査**(5月30日)を例年通り実施(桂川・相模川流域協議会本体実施と連携)：よこはま水と緑の会と共同で6名が参加し、横浜市内の各所の河川で行った。水質調査の地点は、境川水系が計12か所、鶴見川水系が6か所。境川水系の内訳は、和泉川2、平戸永谷川2、阿久和川3、舞岡川2、柏尾川3であった。

- ② **アジェンダの日**(6月5日～6日)に出展参加。日本大通りにて開催：主催は、かながわ地球環境保全推進会議・NPO法人かながわアジェンダ推進センター。桂川・相模川流域協議会／相模川よこはま地域協議会としては、300人ほどの方々に桂川・相模川流域の地図を掲示しながら、また水を飲み比べながら、流域談義・水談義を例年通り行った。味わった水は、「はまっ子どうし」、水道水、そして市販のE。どれもが美味しさにおいては遜色なし。飲み慣れた水道水、やさしい口当たりのする「はまっ子どうし」、他に比べて硬度の高いE、どれもが好み次第ということ。両日とも天気にも恵まれ、秋の収穫祭とのジョイントイベントで120,000人の人出だった。



- ③ **川崎ネイチャーフェスティバル**(9月19日)に出展、3年目の参加：新鶴見操車場跡地「パイオニア空き地」にて、市民、企業、行政が協働して、子供たちの未来のために、都市や森をつなぐことを実践、啓発した。相模川よこはま地域協議会としては、川崎

